

わくわくボード

今、ぼくたちの教室の前には、わくわくボードがはってある。

そこに、一日の学習内ようを日番が書いてある。それは、すすむさんのことをみんなで考えて決めたからだ。でも、四月ごろは、教室のふん囲気はちがっていた。

すすむさんは、とても本が好きで、ぼくたちの知らないことをたくさん知っている。そんなすすむさんだが、四月ごろ、自分の言いたいことが伝わらないと大きな声を出して泣き、友だちとけんかをしてしまうことが多くあった。

ある日の理科の時間のことだ。急に雨がふり始めた。

「雨がふっているの、外に出て、こん虫を観察するのは止めます。」

と先生が言われた。後ろの席のすすむさんがいらいらしているのが分かった。ぼくは、気になって「何でおこってるん。」

と聞いた。するとぼくにもおこり始めた。ぼくは、どうしたらいいか分からなくなってしまった。

昼休みになり、みかさんが声をかけていた。

「どうしたの。」


最初は、


「知らん。言いたくない。」

と言っていたすすむさんが少しずつ話し始めた。その話を聞いていると、

朝の会

①算数

②理科  夏の星座 理科室

③プール  とび箱・マット 体育館

④道徳

⑤学級会 夏休みの計画

終わりの会

わくわくタイム

「理科の勉強でこん虫の観察をしようと思っていたのに急に予定が変わってしまったのが、がまんできなかつたし、そのことをみんなに言えなくて、おこってしまった。」

ということを言っていた。みかさんは、三年生の時から、こまっている時によく相談にのっていた。みかさんに聞くと、

「すすむさんは、す直に自分の気持ちを言うことが苦手で、おこってしまうけれど、しばらくしてからじっくり話を聞くと自分の気持ちを言える時があるよ。」

と言っていた。ぼくは、みかさんってすごいなと思った。そんなみかさんを見て思い切って先生に相談することにした。

次の日、学級会で話し合いをして、わくわくボードを作ることになった。

予定がへんこうになりそうな時は、朝の会でみんなに知らせることもなった。

「そうしよう。すすむさんだけじゃなく、ぼくたちにも役に立つよ。」

「本当、わたしも予定が分かると助かるわ。」

そんな声が聞こえてきた。

今、ぼくは、すすむさんがおこっていると、しばらくしてから話を聞くようにしている。そうすることで、仲よく遊べるようになってきた。みんなもすすむさんと笑顔で話せるようになってきた。わくわくボードをはったことで、みんなも次の予定が分かって、勉強のじゅんびが早くなり、落ち着いて勉強ができるようになってきた。

明日は、ぼくとすすむさんがわくわくボードに書く番になっている。

